

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム松前さくら苑 ユニット1		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	令和7年2月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり、250種1万本の桜の木が咲く『さくらの里』『北の小京都』とも称されています。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり、地元民、施設入居者も和みの桜風景を眺められます。また、隣接している松前温泉休養センターは歴史のある温泉として、温泉が楽しめます。新型コロナウイルスが5類に移行したことで外出の制限が緩和され松前公園へのお花見やドライブ、地元の飲食店へ外食に行くなど少しずつですが外出の幅を広げつつあります。入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるようにお手伝いしながら『自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす』を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松前町は函館より南西に約100Km余り、北海道では最南端に位置し桜の開花も早く桜の名所としても知られている。ちょうど今回の調査が行われた日に桜の開花宣言が行われた。事業所は道の駅(北前船 松前)の手前5Kmほどを松前温泉休養センターに向かって右折した山間部にある。事業所を過ぎたすぐそばが松前温泉休養センターである。周りは雑木林に囲まれており、閑静なたたずまいの中にある。この事業所の特筆すべき点はICT(アイ・シー・ティー:情報処理や通信技術の総称で、インターネットなどの通信技術を利用した産業やサービス、コミュニケーションなどを指す)を導入し、紙の媒体を極力減らし、各種支援のデータ入力を簡潔に標準化し情報の共有化を図ったことである。情報の共有化は事業所内に留まらず利用者家族のスマートフォンを通して、それぞれの利用者の毎日の支援状況をつぶさに閲覧できるようにしている。事務処理に関わる時間を大幅に減らし、支援の内容を閲覧できるまでもっていくには管理者、職員の大きな協働がなければ出来ない。昨年初に赴任した施設長を中心に理念である「関わる全ての人の幸せと地域の発展に貢献し続ける」を支援の中に活かして進み続ける、これからも期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に入って目の前の壁やホールの掲示板に掲示している。理念の他に職員の心得5か条を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し合い、ケアの実践に活かしている。	理念は職員会議等で共有しており、玄関先やホール等に掲示している。理念を更に具体化した職員の5か条を設定して日常の支援や実践に活かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり利用者の家族や友人の訪問もあり、楽しく交流している。新型コロナが5類に移行したことで少しずつ外出の機会が増え、誕生日に地元の飲食店で外食する利用者もいます。	町内会の行事の一つ”裸のつきあい”に利用者共々参加し、風呂に入りご飯を食べている。他にも地域のお盆行事やお祭りに参加している。又、認知症カフェにも参加し地域との交流に積極的に参加している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内で開催される認知症カフェに出席して、地域の方々とお話しすることで、認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	定期的開催しており、議事録も作成している。運営推進会議には町内会長や役場職員、消防団等の参加も得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村とは食中毒警報や予防接種などの各種情報を得たり、利用者の認定調査などを通して日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。また、職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加して周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯のため、夜8時から翌朝6時までは玄関の施錠をしている。	内部研修を通して身体拘束をしないよう支援に活かしている。現状では身体拘束は無い。以前は日中、玄関の施錠もしていたが、現在は防犯上、夜8時から翌朝6時まで玄関の施錠をしている。	研修内容や研修者の感想を含めて記録を取り、非参加者の閲覧を確認する取り組みに期待したい。
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束、虐待防止研修会の参加、施設内部研修を行っている。また、上層部と職員による話し合いの場を設けて職員側の仕事上に関する悩みを聞いたりストレスを軽減できるようにしている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会は、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見・要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気づくりをし会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。また、タブレット端末にて普段の様子などを記録して家族のスマホから閲覧することができる。	利用者からはケアプラン更新時に要望を聞いて反映させている。家族からは面会時や月1回の支払時に情報交換をしている。当事業所ではICT(情報通信技術)により利用者の支援内容を家族に公開している。家族の意見が反映出来るような体制をとっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取り、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見・要望を聞く機会を設け運営に反映している。	施設長と職員はいつでも個別面談できている。月1回のユニット全体会議、さらに各ユニットごとの会議を通して運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。又、代表者との面談の要望があればその機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。本年度は2名の職員が札幌と苫小牧で行われた研修に参加された。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で開催される認知症カフェの参加や、病院で行われるケア会議での交流や意見交換を行うことでサービスの質を向上させることに役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望をくみ取り、安心して生活できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としていることを見極め、利用者の支援の在り方を考えながら、他のサービス利用者も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように積極的に会話をするようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活できるようにしています。また、町内の行事参加をした際、地元民と交流されたりしています。法事、お盆、お正月など家族対応で外出をしている。(感染症の流行状況によっては外出や面会を中止する場合もある)	昨年末よりインフルエンザが事業所内で流行してきた。現在感染は収まっているが、感染に留意し玄関先での面会に留まっている。理美容については本人の希望に合わせて免許を持っている職員が行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活できるような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請のことや施設、入院中の相談や生活保護の件、など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、塗り絵や毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し、困難な場合は家族から情報を聞きながら支援に努めている。	利用者の希望の菓子や飲み物、シャンプーなどの買い物を代行している。調理の手伝いなど本人が出来る事に参加したり、趣味の将棋などのゲームを行えるようにして、楽しみを日々活かす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録などにして、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し、介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高める現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。	入所時は1か月、その後6か月ごとの介護計画を立てている。利用者本人の要望も取り入れながら、趣味等も計画に取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はタブレット端末を使って個別に記録を打ち込み、職員間で日々情報交換・共有して介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援・受診介助、外出の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足していただけるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を始め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入居者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調に変化があり受診が必要な時には職員対応で受診し、結果を家族に報告している。	月1回、町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。外部への受診の際は基本的に職員が対応して、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度から看護師資格を持つ施設長が赴任され、職員同士で対応できない場合は様々な助言をもっている。また、協力医療機関の看護師からも医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは訪問診療や体調変化時に病院側へ連絡し連携を図っている。また、入院時は情報共有書を施設から提供し情報共有している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為が必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携を取りながら取り組んでいる。	看取りは行っていない。重度化した場合には町立松前病院や函館市の病院への入院など、本人や家族の意向を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルを備えて対応できるようにしている。救急救命、AEDの講習を受けている職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足している。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており、また町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制を整えている。	年2回の避難訓練を行っている。災害時の備蓄品は1週間ほど用意し、食料品に関しては消費期限を考慮しながら定期的に消費、購入している。冬の停電時に備えて発電機や石油ストーブ、電池式ランタン等も用意している。	業務継続計画(BCP)の策定がされていない。BCPは2024年4月より義務化されているので、至急策定して職員間で共有し、教育訓練が必要な事柄については、年間の計画の中で行うことを期待したい。(地震や津波、豪雨といった自然災害への対策のほか、感染症対策などもBCPに含まれます)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンを備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。	原則、利用者には姓に「さん」を付けてを呼んでいる。トイレ誘導の際には本人だけに聞こえるような声で呼びかけている。居室のドアには本人が希望する方だけカーテンを掛けるなど、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じ取り、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は身だしなみを整えるようにしている。また、白髪染めや理髪は出来る職員が対応しています。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司やソーメンなど本人の希望を取っている。現在は効率化と衛生面のため湯煎の業務用食材を使用しているが、その中にも行事にちなんだ献立を取り入れている。	誕生月には本人が希望する食べ物を提供し、写真を撮って祝っている。年間の行事食もあり楽しんでいる。利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人のケース記録に記入し、職員で情報共有している。業務用食材については栄養士の資格を持つ調理担当者が献立を考えて発注している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操を取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者1人1人に合わせた支援をしている。	”オムツは止めよう”を合言葉に排泄の自立支援に積極的に取り組んでいる。夜間にはセンサーやマットを用意し、迅速な支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良いものを提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴している。入浴剤を変えることで色や香りを楽しんでリフレッシュして頂いている。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番を変更している。入浴できない人は翌日入浴出来るようにしている。	新館は火・木曜日、旧館は月・金曜日と分けながら週2回の入浴を心掛けている。入浴を拒むときには職員を替えたり、時間帯を変えたりしながら入浴出来るように支援している。今後は入浴時の機能訓練なども考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間までホールでテレビ視聴したり、趣味活動や団楽をし、ゆったり過ごして頂いている。また、声掛けをし休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認できるようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報共有している。服薬記録表があり、服薬できているか確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯たたみ、野菜の皮むき、編み物、塗り絵など役割として出来ること、得意として出来ることなど、1人1人が生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換が出来るような支援を行っている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でお花見や紅葉など、ドライブ企画をし外出支援を行っています。また、近隣の散歩をし、温泉休養センターの売店で買い物をしたり、散歩時に自室に飾りたい花を取ったり外気に触れるように支援しています。(新型コロナが5類に移行してからは少しづつ外出の制限も緩和してきている)	年間の行事計画を立てて外出の支援をしている。この4月の末頃には松前公園の第2駐車場まで出かけ、ソフトクリームを食べて来たいと計画している。事業所前の空き地に畑を作り、利用者の外出の機会を増やす計画もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理していただき、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことができるようにしている。自分で管理不可能な方は施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかってきた場合は、本人とお話をして頂いている。また、訪問時に手紙を預かったときは、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がないため、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間は天井が吹き抜けとなっており、天窓から日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったりと過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持って頂けるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしています。	居間は明るくやわらかい日射しが差し込んでいる。壁には行事の写真が貼られ、季節を感じさせる装飾がされている。居心地よく過ごせるような工夫をしており、不快な臭いなどはしていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしています。1人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい、落ち着いた時間を取ってもらったり、個々に職員とお話をしたりする事が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から送られたもの、位牌を置いている方、お花や鉢植えなど好きなものを置き、落ち着けるような居室にしています。また、プライバシーの為、居室には暖簾をかけており、居心地よく過ごせるように工夫しています。	居室は本人の好みの物が持ち込まれている。家族の写真が飾られたり、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、ホールの周りには手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。また、スプリンクラーを設置しており、安心して生活できるようになっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム松前さくら苑 ユニット2		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	令和7年2月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり、250種1万本の桜の木が咲く『さくらの里』『北の小京都』とも称されています。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり、地元民、施設入居者も和みの桜風景を眺められます。また、隣接している松前温泉休養センターは歴史のある温泉として、温泉が楽しめます。新型コロナウイルスが5類に移行したことで外出の制限が緩和され松前公園へのお花見やドライブ、地元の飲食店へ外食に行くなど少しずつですが外出の幅を広げつつあります。入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるようにお手伝いしながら『自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす』を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に入って目の前の壁やホールの掲示板に掲示している。理念の他に職員の心得5か条を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し合い、ケアの実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり利用者の家族や友人の訪問もあり、楽しく交流している。新型コロナが5類に移行したことで少しずつ外出の機会が増え、誕生日に地元の飲食店で外食する利用者もいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内で開催される認知症カフェに出席して、地域の方々とお話することで、認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。また、職員間でマニュアルを活用し内部研修や勉強会があれば参加して周知徹底を図り共通認識を持ちケアを行っている。居室には鍵は設置していない。防犯のため、夜8時から翌朝6時までは玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束、虐待防止研修会の参加、施設内部研修を行っている。また、上層部と職員による話し合いの場を設けて職員側の仕事上に関する悩みを聞いたりストレスを軽減できるようにしている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会は、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見・要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気づくりをし会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。また、タブレット端末にて普段の様子などを記録して家族のスマホから閲覧することができる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取り、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見・要望を聞く機会を設け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。本年度は2名の職員が札幌と苫小牧で行われた研修に参加された。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で開催される認知症カフェの参加や、病院で行われるケア会議での交流や意見交換を行うことでサービスの質を向上させることに役立てている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望をくみ取り、安心して生活できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としていることを見極め、利用者の支援の在り方を考えながら、他のサービス利用者も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように積極的に会話をするようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活できるようにしています。また、町内の行事参加をした際、地元民と交流されたりしています。法事、お盆、お正月など家族対応で外出をしている。(感染症の流行状況によっては外出や面会を中止する場合もある)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活できるような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請のことや施設、入院中の相談や生活保護の件、など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、塗り絵や毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し、困難な場合は家族から情報を聞きながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録などにして、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し、介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高める現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はタブレット端末を使って個別に記録を打ち込み、職員間で日々情報交換・共有して介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援・受診介助、外出の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足していただけるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を始め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入居者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調に変化があり受診が必要な時には職員対応で受診し、結果を家族に報告している。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度から看護師資格を持つ施設長が赴任され、職員同士で対応できない場合は様々な助言をもらっている。また、協力医療機関の看護師からも医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは訪問診療や体調変化時に病院側へ連絡し連携を図っている。また、入院時は情報共有書を施設から提供し情報共有している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為が必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携を取りながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルを備えて対応できるようにしている。救急救命、AEDの講習を受けている職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足している。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており、また町内会、町内の消防団員が火災情報連絡体制に入っており協力体制を整えている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンを備え付け、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じ取り、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は身だしなみを整えるようにしている。また、白髪染めや理髪は出来る職員が対応しています。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司やソーメンなど本人の希望を取っている。現在は効率化と衛生面のため湯煎の業務用食材を使用しているが、その中にも行事にちなんだ献立を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人のケース記録に記入し、職員で情報共有している。業務用食材については栄養士の資格を持つ調理担当者が献立を考えて発注している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操を取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者1人1人に合わせた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良いものを提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴している。入浴剤を変えることで色や香りを楽しんでリフレッシュして頂いている。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番を変更している。入浴できない人は翌日入浴出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間までホールでテレビ視聴したり、趣味活動や団欒をし、ゆったり過ごして頂いている。また、声掛けをし休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認できるようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報共有している。服薬記録表があり、服薬できているか確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯たたみ、野菜の皮むき、編み物、塗り絵など役割として出来ること、得意として出来ることなど、1人1人が生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換が出来るような支援を行っている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でお花見や紅葉など、ドライブ企画をし外出支援を行っています。また、近隣の散歩をし、温泉休養センターの売店で買い物をしたり、散歩時に自室に飾りたい花を取ったり外気に触れるように支援しています。(新型コロナが5類に移行してからは少しずつ外出の制限も緩和してきている)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理していただき、本人や家族の希望により、預り金から自由に使うことができるようにしている。自分で管理不可能な方は施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかってきた場合は、本人とお話をして頂いている。また、訪問時に手紙を預かったときは、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がないため、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間は天井が吹き抜けになっており、天窓から日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったりと過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持って頂けるように施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしています。1人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい落ち着く時間を取ってもらったり、個々に職員とお話をしたりする事が出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から送られたもの、位牌を置いている方、お花や鉢植えなど好きなものを置き、落ち着けるような居室にしています。また、プライバシーの為、居室には暖簾をかけており、居心地よく過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、ホールの周りには手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。また、スプリンクラーを設置しており、安心して生活できるようになっている。		